

令和元年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471902658	事業の開始年月日	平成17年5月1日
		指定年月日	平成17年5月1日
法人名	株式会社 スマイル		
事業所名	スマイル住いる走水		
所在地	(239-0811) 神奈川県横須賀市走水1-1-6		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9 名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	令和1年12月4日	評価結果 市町村受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

働いているスタッフはお客様の出来る事はそっと見守り、手を必要としている時には必要な援助を致します。行動を制限する事なくその方がどうしたいのか？何をしたいのか？そういった気持ちに寄り添い・お客様との係わる時間を持つように努めています。また、地域との係わりを大切に町内会のお祭りや近隣の方にも声を掛けお餅つきなどにもお客様と一緒に参加しています。また、季節毎に行事なども行っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和2年1月18日	評価機関 評価決定日	令和2年4月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、京浜急行線「馬堀海岸」駅から徒歩15分、走水海岸に近い丘陵地の下にあります。建物は1階にデイサービスがあり、その2階を占め、窓からは東京湾を一望することができます。開設15年、1ユニット9名定員のこじんまりしたグループホームです。

<優れている点>

入居者を「お客様」として敬うことを社是とする法人に属し、朝礼時は福祉、介護知識を涵養するトレーニングを行い、理念に繋がるケアを目指しています。近隣小学校の音楽鑑賞会、卒業式などの行事に参加しています。事業所の餅つきの住民参加といった地域交流と、入居者一人ひとりを大切にすることを柱として実績を重ねてきています。高齢化が進み、看取りが増え、入居者にとって終の棲家としての役割を果たしています。看取り経験を重ねる中で、理念を継続しながら見守りをしていくこと、地域との交流の場として新たな形を求めるなどを今後の課題としています。支える職員も経験を積みながら、入居者との良い関係を築き、また、職員間の連携を保ちながら、長く勤務が続いています。

<工夫点>

入居者とのかかわりの時間を増やそうと、IT化や食材の外部業者委託を進めています。各種の記録の手間の簡略化により、言葉の出ない人、表現がしにくい人に寄り添ったり、思いを汲み取る時間を多くとれるようにし、一人ひとりのできることを支援するようにしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	スマイル住いる走水
ユニット名	1

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	開所時より職員による運営理念を掲げています。職員も変って来ていますので都度リネンの共有を図っています。	「お客様を敬う」という法人理念を掲示し、職員は周知しています。毎朝、各自の言動、記録表現、言葉遣いの確認と、理念を基にした行動規範の読み上げを通して日々の行動に繋がっています。業務の中で互いにチェックして、注意し合えるようにしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し持ちつき大会等事業所の行事にも参加して頂いています。また、地域の行事にも声をかけて頂き出来る限り参加しています。	町内会に加入しています。夏祭りなどの行事に参加し、近隣小学校の音楽鑑賞会、卒業式などの関わりが続いています。事業所の餅つきは近隣住民の交流の場となっています。定期的なボランティアによる歌や「お話し会」を入居者は楽しみにしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ご家族様、民生員の方にも協力を得て地域の方にも伝えていきます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	日頃の生活の様子をお伝えし、話し合いの場を作る事により質の向上に努めています。ご家族の方にもご意見を頂いています。	2ヶ月ごとに開催しています。毎回参加の民生委員や市担当者と、都合をつけて参加する家族で意見が交換が活発に行われています。懸案であった協力医についてや、職員ミーティングで話し合った内容がサービス向上に繋がっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営するにあたり相談させて頂き、ご意見を頂いています。	市の担当者と介護保険や市の福祉政策での事務的なかわり続けています。運営推進会議の報告をしたり、外部評価についての情報をもらうなど情報交換と相談に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の研修を受け職員の共有認識を図っています。入り口の施錠は夜間帯以外していません。	虐待禁止の方針を文書マニュアルで示し、職員研修を年1回実施しています。転倒リスクを検討し、虐待にならないケアを話し合っています。傍らに付き添う、トイレでの立ち上がりを見守るなど、意思を妨げず気持ちを汲み取るケアに努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	社内で行う身体拘束・虐待防止の研修に職員皆参加しています。職員間でも虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度について学ぶ機会、話し合う機会を心がけています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時お客様に分かり易く説明する事を心掛け、「分からない事」や「不安な事」がないか都度確認を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	法人全体の取り組みとしてご家族様向けアンケートを実施しています。（意見や要望の聞き取り）また管理者、職員は面会時等にご家族様とのコミュニケーションを大切にしています。運営推進会議もご家族へ参加を呼びかけそこで出た意見についても話し合いの場を作っています。	入居者から細かな希望を聞き、連絡ノートに記入して職員間で共有しています。管理者は要望について、可能な限り早く対応するようにしています。毎月、家族に請求書を送る際、一人ひとりの写真を載せた便りを同封し、事業所の行事や様子を知らせています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営に関する職員の意見や提案を聞く場として年に2回は面談があります。また日頃から職員への声掛け、サービス上での悩みを共有し解決出来るようつめています。	管理者は、年2回職員と面談しています。チェックシートに各自記入して課題を話し合っています。必要があればミーティングで話し合い、就業時間に反映させたり、業務の見直しに繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に1回は管理者・サービスマネージャーによる面談を行っています。また職員が働きやすい職場環境を作りあげられるよう意見を取り入れ実践しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内については介護技術研修も行っています。外部研修についても横須賀市主催の研修やグループホーム協議会主催の研修に参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム協議会やグループホーム協議会主催のエリア会議に参加し勉強会や情報交換を通じサービスの質の向上を図っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前にアセスメントを行いご本人様、ご家族様が望むこと不安な事を把握し十分納得頂いた計画書をもとにご利用いただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	アセスメントを行った際に聞き取った不安な事などについてご家族様面会時等にお伝えすると共にご家族様からも何か気が付いた事を伺うようにしています。また要望にも耳を傾けるよう対応させて頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	アセスメントを行った後に職員と入居判定会議を行いそこで必要な支援についてもお話しています。また契約の時にもご家族様の思いを確認し必要なサービスを行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員はお客様の出来ている事（洗濯物たたみ、食器拭き、食事作り、趣味等）をそっと見守り必要な支援をしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時にご家族様にお客様の日頃の様子を報告させて頂いています。外出の時等ご家族様にお手伝い頂く事もあります。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	行きたい場所がある事や人との大切な繋がりを職員は理解しており支援するように心掛けています。馴染みのある所へドライブ外出したりもしています。また日々の会話の中からも繋がりが保てるよう情報の把握に努めています。	年始の初詣や月1回の外出を恒例として楽しんでいます。毎日家族の来訪のある入居者、自宅への外泊、階下のデイサービスに参加など、外との繋がりを大切にしています。個別外出の希望には体調や、予定の調整を図り、検討を重ねて実施するようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個々の思い出や生活（これまでの）の中からお客様同士共感や興味をもっていただけるよう談話したり個々に今の思いを話したりしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご退去となった場合でも「何かあれば何時でもお話を伺います。」という事を伝えています。またイベントへの声掛けも行っています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	「気がついた事」をいつでも書き込める用紙もありお客様の言葉をかき込むようにしています。書き込んだら職員は目を通すようにしています。（連絡帳もあります。）	入居者と関わる時間をできるだけ多く作り、気持ちを聞き取ることに努めています。言葉でコミュニケーションが難しい人には傾きや表情を読み取り、意思を汲み取って判断しています。気付いたことや出来事は連絡ノートに記入し、ケアに繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントで聞き取れていない情報に関して職員が聞き取る事が出来た場合は内容を連絡帳に記入し把握に努めています。またご本人様やご家族様からも話をきくようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	申し送りや連絡ノートに変化等を記入し個々の状態把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画を作成する際はケアカンファレンスでの意見交換、スタッフ持ち回りでのモニタリング等を参考に作成しています。	毎月モニタリングの担当を決め、入居者について検討するミーティングを実施しています。介護計画作成には職員からの意見を聞くと共に、ケアマネジャーが家族の意見を聞いて反映させています。見直しは、更新時、または変化のあった時など3～6ヶ月ごとに行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	お客様の日々の様子や食事・水分量、バイタルの記載や気付いた事等を記載しています。職員は出勤時記録を見る事と申し送りをうけています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時々によるニーズにも対応し必要があれば福祉用具に連絡をする等の対応をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ご近所に住んでいた方が顔を出して下さったり、ご家族の方がいつでも訪問出来、一緒に外出や、レクレーションに参加しています。またご家族様による食事の介助も行ってくださっています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご入居の際主治医についての意向を確認し希望された方に関しては往診医に依頼しています。	全員が協力医療機関の医師を主治医としています。内科医月2回、歯科医週1回の往診、訪問看護師は週1回の来訪です。必要があれば随時往診があり、医療連携で24時間対応です。日頃の体調は、家族への毎月の便りの中で知らせています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に1回（毎週金曜日）、訪問看護を利用しています。何かあれば訪問時に報告・相談・連絡を行い密に連携を図っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを作成し病院側に提出しています。ご家族様から情報頂く事も多いですが様子を見に伺ったりこちらから病院側に連絡・相談を行う事もあります。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合について契約時に説明を行っています。お客様の状態に合わせて随時ご家族様の意向も確認しながら終末期の有り方についてお話ししています。またご家族様の思いやご本人様の思いも確認し話し合いながらスタッフ間の共有にも勤めています。	重度化対応・終末期ケア対応指針に基づき、入居時に説明し、意向を確認して文書化し、同意を得ています。多くの看取り経験があり、職員は法人主催の見取りの研修やグループホーム協議会の研修に参加しています。終末期には家族が居室で付き添うことも可能です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	グループホーム協議会主催の心肺蘇生の研修や社内での研修に参加し良い点・悪い点を想定しながら話し合い実践につなげています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練は定期的に行い職員全員が避難の方法を身につけるよう取り組んでいます。	春と秋の年2回火災を想定した避難訓練を実施しています。1階のデイサービスとの合同訓練もあります。消防署が立ち会い、職員・入居者が参加しています。非常食や飲料水は3日分の備蓄に加え、懐中電灯やカセットコンロ、ランタンなどの備えもあります。	非常食、飲料水などの品目、数量、消費期限は電子データにより管理しています。停電時を想定して一覧表を印刷し、常時掲示して日常的に管理することも期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	法人全体で取り組んでいる事として「スマイルの誓い」があり全ての職員が敬う姿勢で丁寧な言葉遣いを心掛けています。また更衣時等はドアを閉める事に配慮しています。	入居者を「お客様」と捉え、意思を尊重し敬う姿勢により、職員の「こころ」を育て「かたち」に示すことに努めています。「です・ます」の丁寧な言葉遣いや居室に入室する際のノックなどを徹底しています。個人情報とプライバシーの研修を実施しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	一人一人のお客様にゆっくりと係わりを持つ事を心がけお客様からの要望に出来る限り叶えられるように努力しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入浴日や時間などは決めずにその日入浴を希望される方や状況に応じて入浴をしています。食事や起床・就寝時間も同様の考えで支援しています。また毎晩晩酌される方やお客様の見たいテレビ観賞にも努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	お客様の気持ちを取り入れた身嗜みを心掛けています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	お客様と一緒に梅ジュースやおはぎ作りなど行っています。職員はお客様と一緒に食事をとりコミュニケーションを図っています。	基本的なメニューと食材は外部業者に委託していますが、職員がアレンジして調理しています。イベント食もあります。敷地内の家庭菜園の野菜が食卓にのぼることもあります。おやつやジュースを手作りしたり、回転寿司店などでの外食をすることもあります。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりに合わせて食事の盛り付けをしています。水分摂取量を把握し甘いのを好む方には甘い飲み物を、水分量が少ないお客様にはゼリー飲料を提供したりその方に合わせています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	職員のケアが必要な方には毎食後口腔ケアを行っています。ご自分で行える方に関しては見守りさせて頂いています。また2週に1度訪問歯科を利用し必要に応じてアドバイスいただいています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	その方の排泄パターンや時間を見て声掛けさせて頂きお手洗いで排泄が出来るよう支援しています。	自立して排泄できるよう、一人ひとりの排泄時間の間隔を把握しています。また、ちょっとした仕草を見逃さず、周りに対する羞恥心に配慮し、さりげなく声かけしてトイレに誘導しています。夜間は自室のポータブルトイレで対応する場合があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘傾向の方には牛乳やヤクルト、ヨーグルトを摂取して頂き普段より多く水分摂取を促したり、軽い運動をして頂いています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴日や時間帯も特段決めておらず、お一人で入浴したい方については側で見守りさせて頂きゆっくりと入浴して頂いています。また柚子湯や菖蒲湯、バスクリンを入れての入浴も行っています。	基本的に週2回、日中の時間帯に、曜日や時間は固定せず、体調やその時の気分に合わせて随時入浴しています。浴室は明るく、入浴剤やゆず湯などで入浴を楽しんでいます。入浴中は職員がそばにつき添い、見守っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	お客様一人一人の状態を把握しお休みしたい方はお部屋で休息したりソファで休まれたりして少しでも足を伸ばして頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	お客様ファイルにその方が服薬しているお薬情報があるので職員は薬変更時等確認し、情報共有しています。また副作用などについても確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	トランプやカルタ、百人一首、パズルなどお客様と一緒に職員も楽しんでいます。また日々の生活で洗濯物たたみや掃き掃除も行っています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	お客様全員で外出したり個々にドライブしたりしています。ドライブしお客様の行きたいところにより買物してくる事もあります。	神社への初詣、花見、町内の夏祭り、久里浜花の園などに出かけています。花火大会の見物や餅つき大会には家族も参加しています。家族の来訪も多くあり、家族と墓参りに行く人もいます。天気の良い日は敷地内のベンチで外気浴もしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	可能な方にはお財布を持って頂き好きな物が買える様支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご希望がある時には電話や手紙のやり取りが出来るように支援しています。またご家族から電話が来た時にご本人様に代わりお話しする事もあります。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居心地良く過ごして頂けるよう工夫しています。（手が届く位置に物を置いたり、季節を感じる物を飾るなど）、光に敏感な方もいらっしゃるので明かりを消したり、カーテンで調整しています。	建物は高台にあり、窓からは東京湾や猿島が一望できる素晴らしい眺望です。リビングは明るく、壁面には干支にちなんだ入居者全員の写真のある飾りや、パズル絵などが飾られ、温かい雰囲気です。リビングは畳コーナーをフローリングに変更したため広々としています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下のソファや椅子、リビング以外にも腰を下ろし寛げる環境作りをしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人様の馴染みの家具や大切にしていた物はお持ち頂き少しでも居心地良く過ごして頂けるよう努めています。	エアコン、照明は備え付けで、温水の出る洗面台も備わっています。入居者は、自宅からなじみのあるタンスなどを持ち込み、自分の作品や写真を飾っています。テレビや冷蔵庫を置いている人もいます。窓はシャッター付きで毎日職員が開閉しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	職員全員が情報を共有し安全且つ自立した生活が送れるよう心掛けています。		